

宮城県石巻市・震災復興学習支援 レポートNo.26

石巻 出前寺子屋「検定合格講座」

◆活動報告その26[2012年8月5日]

自塾の夏期講習会の合間をぬって、第26回目のスクーリングを実施した。思えば第1回の活動が昨年8月16日であったので、まる1年が経過しようとしている。正直なところ1年を超えての活動になるとは予想もしていなかった。緊急の学習支援活動としては、半年継続すればその役割を果たせるか、といった程度の認識であったのである。6月までの第1・2期は、活動のきっかけを作った谷村和枝の行動力に引っ張られて突っ走った感が強い。それに私塾ネットおよび千葉の学習塾組合の仲間が資金面、人材面の両面でサポートしてくれた。彼らの資金援助でここまで活動が維持できたし、この間現地に足を運んだ塾関係者は延べ80名を超えるのである。

6月17日以降の第3期の活動は、いくらか意味合いが変わってきている。JEDROの資金支援により、現地スタッフとして東北大の優秀な学生さんに参加してもらえるようになった。我々ベテランは、彼らの若さの魅力にはどうも歯が立たないのである。加えて、石巻で書道塾「学朋齋」を開かれています佐久間昭一郎氏が専任講師として参加していただけることになり、指導陣に厚みが増した。英検講座が本格化したことも前2期と違う点である。静かな漢検学習の隣で、英語の音声が響いているという光景は、出前寺子屋としての充実を実感するところである。

ところでこの日の活動には、千葉から谷村和枝、志厚、仙台から米澤、小野両君それに現地の佐久間さんの計5名が参加した。午前10時仙台駅前をレンタカーで出発。仙台は翌6日から七夕祭りということで、駅構内には大きな七夕飾りがいくつも展示されている。商店街にも大小様々な七夕飾りが競い合い、杜の都全体が華やいだ雰囲気であった。

車は渋滞もなく三陸自動車道を順調に進み、石巻河南から一気に女川町に向かった。東北大の両君に女川の津波被害の有様を実感してもらうため、足を延ばしたのである。

昼食を兼ねて女川復興商店会「きぼうの鐘商店会」に立ち寄る。女川高校のグラウンドに50店舗ほどのプレハブの商店が軒を並べている。銀行や郵便局まで併設されている。いずれもかつては、女川の町にお店を構えていた地元商店である。被災地のあちこちに復興市や商店街が生まれているが、ここは東北最大規模の仮設商店街とのことである。ここにも復興への一歩が刻まれている。しかし、本来の商業の地に帰ることのできない現実、復興への道のりの長さや困難さを痛感せざるをえない。



町立女川病院の駐車場から女川湾と被災地を望む。息子二人？にはさまれて、谷村嬉しそう。



受講生全員でフラワーアレンジメントを楽しむ。

この日の受講者は漢検・英検合わせて20名と少々さびしい。この日石巻は気温30度を越えこの夏一番の暑さを記録したが、この猛暑も出席をにぶらせる一因であろう。ところでこの日の全体集会では、テッポウユリを花材にしてフラワーアレンジメントを実施した。それに谷村の故郷の愛媛から送られてきたみかんジュースを提供させていただいた。実家がみかん農家なので、実家の兄の精いっぱい心づかいである。お一人2缶ずつお配りし、遠隔の地四国は伊予の味をご賞味いただいた。(報告：谷村志厚)

欠席の理由にも復興の兆しが

夏休みも中盤となり、中学生を中心とした欠席者が英検講座でも見られた。5級講座で2名、4級講座で1名、3級講座で1名の欠席があった。合計4名の欠席者中3名は同一ファミリーで、中学の夏休みを利用して家族旅行をする、というのが本日の欠席理由であった。このファミリーが元住んでいた集落に昨年3月11日、津波が北上川本流を逆流し、氾濫して家々を襲い、集落にあった80世帯のうち78世帯が全壊若しくは流失するという被害を受けたのであった。そして、現在は高台にある仮設住宅で一家は

石巻 出前寺子屋 「検定合格講座」の仕組み

活動期間：第Ⅰ期 2011年8月16日～2012年2月4日

第Ⅱ期 2012年2月19日～6月17日

第Ⅲ期 2012年6月16日～11月10日

①スクーリング(漢検・英検学習)

2011年8月16日、9月4日、18日、10月2日、16日、11月5日、20日、12月11日、24日、2012年1月8日、22日、2月4日、19日、3月4日、18日、4月1日、15日、29日、5月13日、27日、6月2日、9日、17日、7月1日、22日、8月5日、26日、9月9日、23日(以上会場確定分)

②会場 仮設開成ささえあい拠点センター集会所

③検定受検(第Ⅲ期)

平成24年度第2回英語2012年10月13日

平成24年度第2回漢字2012年11月10日

④受講対象者 仮設住宅、借上げ住宅等に居住する被災市民

⑤受講者特典 教材費・スクーリング受講費・検定料の全額が無料

暮している。振り返ってみれば、昨年の7月8月はプライバシーも冷房もなかった避難所から仮設住宅に移り住んだばかりで、まだ家族旅行をする余裕はなかったと思われる。今年は家族旅行がようやく実現したのである。被災された人々の心の中で、一步一步ではあるが復興は進んでいると感じられる。

2カ月後の受験に向け、いかに準備すべきか

さて、本日(8月5日)の英検講座は、5級の中学1年生2名を東北大学院の米澤さんが指導し、4級の成人1名と中学1・2年生各1名を東北大学部3年の小野さんが指導をした。4名の参加者がいた3級講座は私(谷村和枝)が授業を担当し、過去問題を解く2級講座と単語力アップを目指す準2級講座は、個別指導形式で、米澤さんと私のペアが対応をした。

1月に受験を繰り延べにした準2級を除くと、どの級も過去問題を解いて仕上げに取りかかる終盤になっているのだが、多くの受講者が今一歩のところまで足踏みをしている状況が見られる。10月13日の受験までに残された2カ月で英語力をどのように付けていくか、仕上げていくか、が課題として浮かび上がってきた。松戸の自塾でも同様の傾向が見られ、指導者としての責任を重く感じて、今日の授業を終えた。仕上げの課題を背負って学習が取組まれる次回の出前寺子屋は、8月26日に開催される。(報告：谷村和枝)



英検3級の指導風景。中3生3名とお母さんが受講生。

過去3回の漢字検定実績・58名受検中合格者52名
2級-13名、準2級-14名、3級-12名、4級-4名、5級-4名、
6級-3名、7級-2名 (小中学生16名、一般36名)

ご支援ありがとうございます

当活動は支援参加者個人の負担と、ご援助をいただいた皆さんの浄財で運営しております。2012年6月17日の活動からは、日本キリスト教協議会・震災対策室(JEDRO)から活動資金支援をいただいております。

主管: AIM学習セミナー(私塾ネット会員・松戸市)
後援: 全日本私塾教育ネットワーク(略称・私塾ネット)
支援: 日本キリスト教協議会・震災対策室(JEDRO)